新型インフルエンザに備える

じゅうぶんな理解と、早めの準備を

▲インフルエンザの感染予防に有効な手洗い

ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザが発生すると、免疫を持たない私たちは、感染を防ぐことはできません。その影響は、健康被害にとどまらず、社会的・経済的な混乱が生じると予測されています。

世界保健機関（WHO）は、新型インフルエンザの出現の可能性がかつてないほど、高まっていると警告を発しています。

今回は、新型インフルエンザの危険性と発生した場合の行動について、紹介します。

問い合わせ先　市総務課☎30-6100番、FAX22-1398番、市健康管理課☎24-0816番、FAX24-5870番、

いつ起きてもおかしくない、新型インフルエンザ

新型インフルエンザ

新型インフルエンザウイルスとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスがヒトに感染し、ヒトの体内で変異して、ヒトからヒトへ容易に感染できるようになったウィルスです。このウイルスが感染して発症する病気が、新型インフルエンザです。スペインかぜ、アジアかぜ、香港かぜなど、過去に大流行したインフルエンザは、数十年周期で発生しています（図1）。新型インフルエンザは、周期的には、いつ発生してもおかしくありません。

現在の状況

WHO（世界保健機関）が発表している現在の新型インフルエンザの危機管理レベルは、「フェーズ（警報段階）3」となっています（表1）。これは、世界規模で見ると、鳥からヒトへの感染は見られるが、ヒトからヒトへの感染の拡大は見られない、あるいは非常にまれに、密接な接触者（家族など）へのみ感染が見られるにとどまっている状況です。また、日本では発生していないため、海外でのみ発生しているという段階です。6月19日現在で、WHOが確認している鳥からヒトへの発症者数は385人、このうち死亡者は243人と報告されています。しかし、現段階では、新型インフルエンザウイルスがどのぐらい強い感染力をもつかは、予測できません。

新型インフルエンザとパンデミック

基本的にすべてのヒトは、新型インフルエンザウイルスに対して抵抗力（免疫）を持っていません。このため、新型インフルエンザが発生すると、急速に広がると考えられます。さらに、人口増加や都市への人口集中、飛行機のような短時間で多くの人が移動できる交通機関の発達などによって、新型インフルエンザは、短期間のうちに、ひとつの地域だけでなく、地球全体に広がると考えられます。この大流行をパンデミックと言います。

パンデミックが起こると、多くの人が感染します。国の予測をもとに、彦根市で予想される感染者数を下の表2で示しました。この表は、全人口の25%が感染し、致死率を2%（1918年に大流行したスペイン風邪での致死率）と想定した場合の数値です。スペイン風邪は、過去に流行した新型インフルエンザのなかでも最も被害が大きかったインフルエンザです。

パンデミックが起こると、国内では64万人が死亡し、外来患者は、約2、500万人に上ることが想定されています。これを彦根市に当てはめると、約600人が死亡し、外来患者は約2万4、000人となります。医療機関は患者であふれかえり、国民生活や社会機能の維持に必要な人材の確保が困難になるなど、さまざまな問題が生じることが考えられます。

図1　過去の新型インフルエンザの発生状況

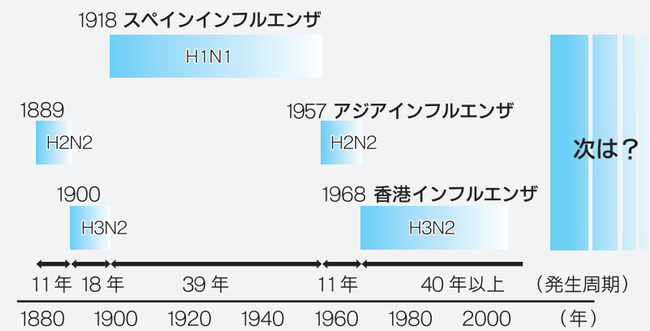

表1　新型インフルエンザの危機管理レベル

流行の度合い	感染の度合い	フェーズ
前パンデミック期 新しいウイルスが鳥などで見つかる	人への感染リスクが低い	1
	人への感染リスクが高い	2
パンデミック警戒期 人の感染が確認される	人から人への感染がない、もしくは非効率的である	3
	人から人への感染が増加傾向	4
	人から人への感染が増加している	5
パンデミック期	人から人へ容易に感染する	6

人への感染度　低　現在の段階　高

表2　新型インフルエンザが大流行した時に予測される感染者数

	死亡者	入院患者	外来患者
国	64万人	200万人	2,500万人
滋賀県	7,200人	2万2,500人	28万1,200人
彦根市	600人	1,900人	2万4,000人

※感染者数は、国内の人口を約1億2,000万人、滋賀県の人口を約135万人、彦根市の人口を約11万5,000人として計算しています。
※ウイルスの病原性や感染力によって、健康被害の状況は異なります。